

2月に入りました。三寒四温、ちょっと不安定な天気が続いていますが、少しずつ春が近づいているように思います。教科書の後ろの方を勉強しながら、子どもたちは少しずつ進学、進級を意識しているようです。

👉 2月の全校朝会でこんな話をしました 👈

めざせ、あいさつ日本一。みなさん、おはようございます。

負けんばい熊本。～ 負けんばい熊本。

この言葉は8年前の熊本地震の時の合言葉です。地震で家が倒れて避難所で生活する人たち。家にいても、家具が壊れ、水道や電気が止まり、何回も何回も来る余震に心がずっと締めつけられ、安心して眠れない。当時はとっても大変な状況でした。

そんな困難の中でも、負けずに、生活をとりもどそうというみんなの心を表した合言葉です。この言葉をポスターやステッカーなどにして貼ったり、互いに声をかけ合ったりしながら、人々は苦勞しながらもがんばり続けました。そして、熊本の人は困難に打ち勝って、町を立派に復興しました。

それと同じようなこと、いやもっと大変なことが今、能登半島地震で起きています。そして、今この時も能登の人々は困難に負けずに片づけなどをしながら、一生懸命生きておられます。

こんな人々の姿を、皆さんに見習ってほしいと思います。

皆さんがこれから生きて行く中では、地震のような自然災害だけでなく、いろんな大変なこと、難しいことに必ず出会います。毎日の生活の中にだって、宿題が面倒だとか、この勉強は苦手とか、掃除や運動はきついとか、小さな困難がたくさんあります。そんな時、やる前から「無理。」とか言って逃げようとはしていませんか。地震に打ち勝った人々を見習い、生活の中にあるちょっときついことや難しいことから逃げずにがんばってほしいと思います。困難を乗り越えることで人は成長し、心が強くなっていきます。

見習ってほしいところは、もう一つあります。それはボランティア、進んで人の役に立つことです。今、能登には日本中からボランティアが集まり、進んで人々の役にたとうと、片づけなどをされています。

皆さんも、もし周りにきつそうな人がいたら進んでお手伝いをして、人の役に立つことをしてほしいと思います。

六年生は今、自分たちの手でこの清水校区を良くしようと活動しています。「小学生が地域をよくするなんて無理」って言う人がいるかもしれませんが、でも六年生は、自分たちでどうにかできないかとアイデアを出しあったり、よそのことを調べたりしながら、町を良くする計画を立てました。そして昨日、地域の方々や役所の方々に前にその計画を発表しました。とても素晴らしい発表でしたよ。発表を聞いた大人たちは、「すごいアイデアだ。ぜひ協力したい。」と感心しておられました。6年生はこの後、実際に活動をします。小学生だって立派に町を良くすることができます。その手本を六年生が見せてくれています。

みなさんはたくさん力を秘めています。がんばれば、難しそうなことだって、必ず乗り越えられるんです。そして、たくさんの人を幸せにすることができます。だから、目の前のきついことや大変なことから逃げることなく、役立つ人に成長してほしいと思います。

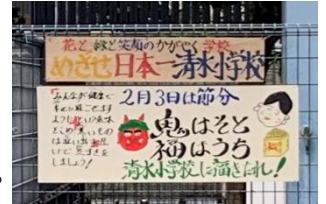
みんなのがんばる姿がいろんなところで見られたら、校長先生はとってもうれしいです。これで校長先生の話が終わります。

校内の掲示物、様子をご紹介します

学校を回るといろんな掲示物に出会えます。

節分について紹介したコーナーです。

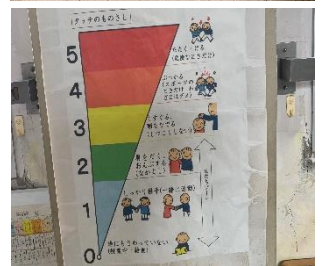
四季折々、日本の伝統文化を教えてください。



こちらは英語・外国語のコーナー。バレンタインについて書かれています。(多分)



こちらは廊下に貼ってある「タッチのものさし」望ましい友達との距離を示しています。友達ゾーンを超えたタッチはトラブルの元!



通級教室の入口の様子です。廊下にはクイズや頭脳ゲーム、植物が置かれ、休み時間はいろんな子がここでホッと一息。入り口はまるで喫茶店のようなインテリア。とても落ち着く雰囲気です。



全校朝会の話に出てきた6年生の「町の幸福論」(プレゼン発表)の様子です。行政、教育委員会、自治会の方々を前にしながら、立派なプレゼンを行いました。大人にない視点やアイデアが出され、参加者はメモや写真をとりながら熱心に聞き、質問や感想を返されていました。堂々と思いを伝え、質問に答えていた6年生。頼もしく感じました。次は実働。大人も巻き込んでがんばります。